

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

元気な郷土めざし

ふるさと

新年を迎え決意新たに!



皆さまに

おかれまし

ては、輝か

しい新年をお迎える事と心

よりお喜び申し上げます。

昨年9月6日には、かつて

経験したことのない震度7



という北海道胆振東部地震
が発生し、甚大な被害が出
ました。亡くなられた皆様、
そして被災された皆様に心
からお悔やみとお見舞いを
申し上げます。

一日も早い復旧・復興を

目指すとともに、観光産業
などへの風評被害をなくさ
なければなりません。

また、震災と同時にブラッ
クアウトという北海道全域
が停電することにもなり、
改めて電力への依存の大き
さと発電の分散化の必要性
を痛感したように思います。

一方、JR北海道の路線
見直し問題では、国からの
具体的な支援策についても
明らかにならず、地域に負
担だけを求める国のやり方
に強い怒りと憤りを感じて
います。

強行採決を連発

10月24日に召集された
臨時国会は、わずか48日間

という短い日程にもかかわらず、出入国管理法改正を
はじめ、水産関連法制の改
正、水道法の改正、EUと
のEPA承認など、充分な
議論をせずに、強行採決を
連発し、国民の声を無視続
けています。

地域の声を質問

私は、第4回定例会の予算
特別委員会において、地域
医療構想の取り組みや水道
法改正による影響、TPP
11や日EU・EPAによる
影響と継続的な検証、米
国の物品貿易交渉ではオー
ル北海道で北海道農業を守
る体制の構築などについて
質問をしてきました。

二〇一九年
夢は大きく

ゆうこう

残念ながら高橋知事は、
まともに答えませんでした
が、粘り強く地域の声を発
していく必要があります。

北海道は、可能性豊かな
地域です。道民の知恵と工
夫を組み合わせることによ
り、もっとたくましい地域
に飛躍できるものと思っ
ており、その為にも私は、人
を大切にし、一人ひとりの
発想や想いを受け止めるこ
とができる政治家を貫き、
これからも頑張る決意です。
北海道議会議員 北口雄幸

北口雄幸のプロフィール

- 1956年(昭和31)8月25日農家の4男坊として生まれる。
- 士別市立大和小学校、上士別中学校を卒業。
- 1972年、士別高校入学と同時にレスリングに没頭。3年では主将を務め、高校選手権北海道大会では56kg級で準優勝。
- 1975年、高校卒業と同時に士別市役所に勤務。林務課、市立病院医事課、市民課、建築課住宅担当などに勤務。この間、自治労士別市職労及び自治労旭川地区本部の専従役員として労働運動に参加。
- 2006年3月、31年間勤務した市役所を退職。同年4月の士別市議会議員選挙では、1,365票を獲得してトップ当選を飾る。
- 2007年4月の北海道議会議員選挙(上川選挙区)に挑戦。初陣で27,454票を獲得しトップ当選。
- 2011年及び2015年の道議選挙では、連続無投票で3期目の当選を果たす。
- 現在、民主・道民連合会派の幹事長。超党派の農政議連及び林活議連役員として、一次産業の振興を図る。

第4回定例道議会報告(11月27日~12月13日)

第4回定例道議会は、11

月27日(火)に開会、災害
対応等の補正予算、「北海道
植樹の日・育樹の日条例」、

「新たな外国人材受け入れ
の適正な実施と多文化共生
社会の実現に関する意見書」
などを可決し、12月13日
(木)に閉会しました。

知事、議会で去就語らず

知高橋知事は、自身の去
就について、今定例会の論
議でも一切明らかにしない
ままにもかかわらず、その

一方で、「定例会閉会直後に
参院選への転身の表明」が
報道されるなど、不誠実極
まる対応ぶりでした。

国追随の姿勢強まる

安倍政権は、短い会期の
臨時国会で、外国人労働者
の受け入れ拡大を目的とす
る出入国管理法改正、水産
関連法制の改正、水道法の
改正、EUとのEPA承認
など国民生活や自治体運営
に大きな影響を及ぼす重要
課題を十分な審議抜きで強

行採決の連続で成立させま
した。こうした課題は、本
道でも一次産業をはじめと
して深刻な影響が予想され
ることから、道の対応、知
事の見解を質疑しましたが、
知事は政府と同じ答弁を繰
り返し、北海道への影響も
語らないままでした。

2島返還が急浮上した北
方領土についても、北海道
知事としての明確な見解を
示しませんでした。また、
カジノ誘致についても、知
事は自身の判断を明らかに
しないあいまい答弁を重ね、
実際には、誘致を既成事実
化するような対応となつて
います。

国支援、明らかにならず

JR北海道の路線問題へ
の対応は切迫していますが、
国の支援姿勢が明らかにな
らないままで、新たな年を
迎えます。TPPとEUと
のEPAが動き出す国際貿
易交渉を巡っては、アメリ
カがわが国との二国間交渉
に強い意欲を示し、本道農

議員提案で 「北海道植樹の日・ 育樹の日条例」制定

林業関係者から要望のあ
った、植樹及び育樹を通じ
て、森林及び樹木に触れ親し
み、森林の豊かさや様々な恵
みに感謝する条例を、議員提
案で制定することができまし
た。

また、記念日及び月間を設
け、活動に対する積極的参加
を促すこととしています。

- ・植樹の日→5月第2土曜日
- ・育樹の日→10月第3土曜日
- ・植樹月間→5月
- ・育樹月間→10月

最終日に可決されました。

これによって、平成30年度
北海道予算の総額は、一般
会計2兆8569億円、特
別会計1兆1192億円の
合計3兆9761億円とな
りました。

採択された決議・意見書

▼国際リニアコライダの誘
致に関する決議▼新たな外国
人材受け入れの適正な実施と
多文化共生社会の実現に関す
る意見書▼水道事業の基盤強
化等を求める意見書▼放課後
児童クラブの質の確保を求め
る意見書▼防災・減災対策等
の充実強化を求める意見書▼
私立専修学校等における専門
的職業人材の育成機能の強化
等を求める意見書▼我が国の
領土・領海の基点となる離島
の保全・管理に関する意見書

災害対策に265億円

補正予算は、胆振東部地
震災害復旧費等の一般会計
265億1600万円を開
会初日に可決。また、特別
対策事業費などの一般会計
54億600万円、道営競
馬の誤審への対応費等の特
別会計3億8100万円が



予算特別委員会の総合政策部所管で、国際貿易交渉とJR北海道の路線見直しについて質問(12月7日)

写真で振り返る北口道議の活動記録(7月~9月)



国営農地再編整備推進連絡協議会(10月26日)



連合北海道第31回年次大会(10月24日)



富良野市労連・退職者会30周年(10月27日)

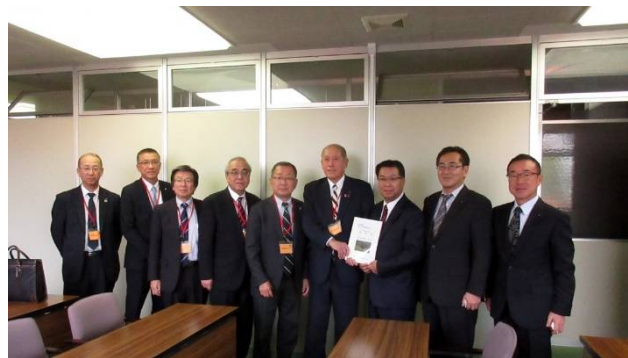


さっぽろ市土別ふるさと会 交流の集い(10月27日)

士別市立士別西小学校閉校



士別市立西小学校閉校式(11月10日)



甜菜振興自治体連絡協議会(11月7日)



士別市酪農組合連合会設立50周年記念式典(11月22日)



士別青少年剣道育成会ビールパーティー(11月17日)



←北海道防災航空室を視察(11月8日)



→党派の中央要請で道選出国会議員と懇談(12月14日)

北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kiaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(10月～12月分)

◆10月12日【南和広域医療企業団視察】▼奈良県の南



南和広域医療企業団を訪問

和広域医療企業団は、「南和の医療は南和で守る」の基本理念のもとに平成28年4月にスタート。奈良県や五条市をはじめとする1市3町8村の市町村で企業団を設立し、公立3病院の再編、ドクターヘリの運航やへき地診療所とのネットワークなどの取り組みを進めてい



福島県川内村を訪問し遠藤村長と懇談

る(中略)▼今回視察調査した南和広域医療企業団は、奈良県知事の強いリーダーシップのもと、『奈良県モデル』と言われるような県と12市町村が一体となり、病院再編も同時に行いながら地域医療を守ることを進めている▼私は、以前にも青森県の「つがる西北五広域」を視察しており、単独での医療の提供から地域が連携し、一体となった医療提供体制の確立が求められており、そのためには、市町村の理解とともに、道のリーダーシップが求められていると強く感じたところだ。

◆11月2日【川内村を訪問】▼土別市と絆協定を結んで

いる福島県川内村(遠藤雄幸村長)を訪問。福島原発事故の影響を受けて、村全域が屋内退避区域に設定され、村民に自主避難指示、その後帰村宣言しながら復興への道を探っている▼遠藤村長のお話では、現在81%の住民が帰村しているが、完全復興には至っていない。また、震災時に、国や県、役場の情報を信じてもらえず、苦労したのとことだ▼今後、完全復興に向けた取り組みや情報提供のあり方などを意見交換し、避難計画などでは、創造力が大事であることをお伺いしたところだ。

◆11月24日【富良野道路開通式】▼旭川十勝道路「富良野道路」(北の峰IC～布部IC)の開通記念式及び渡り初め式に出席してきた▼富良野道路は、旭川と占冠を結ぶ観光はもちろん、農産物の輸送、救急患者の搬送、災害時の代替道路としての役割と同時に、上川圏と十勝圏の連絡機能の強化を図



富良野道路の開通式



障害者を支援するXmasのつどい

ることが期待される▼一方この区間8.7kmの工事には、12年の歳月と437億円の巨費が投入されての完成であるが、一日も早い全線の開通を目指すと同時に、費用を抑えた工法の開発などが課題である。

◆12月15日【クリスマスのつどい】▼障がい者の地域活動

動を支援する会(古川春男会長)主催の「クリスマスつどい」に参加。例年よりも多くの皆さんが参加し、地域で障がい者を支えようという気持ち伝わってきたひと時であった。

【News】

▼出入国管理法改正、水産関連法制の改正、水道法の改正、EUとのEPA承認▼これは、わずか48日間という短い日程の国会で成立した重要法案である。どの法案も、国民の生活に重要な影響を与えるにもかかわらず、極めて短い審議時間で強行採決されたのである▼「主権在民」日本国憲法の前文及び第1条で「主権が国民に存する」と明記されている。しかし、この国民の声を聴かない国会運営は、とても主権在民が存在する国とは思えない▼12月14日、国は、沖縄県の辺野古の埋め立て予定地の海に土砂の投入を開始した。「沖縄県の民意は、知事選で示された」にも関わらずである。この国に民主主義と地方自治はあるのだろうか▼政治を国民に取り戻す。その第一歩は、統一自治体選挙と参議院議員選挙で示すことだ。(ゆづりこ)